特集 未踏ユースから育ったタレントたち 11

未踏とオープンソース

川口 耕介　Architect, CloudBees, Inc.

Cornell University 工学部計算機科学科修士．Sun Microsystems, Inc. で XML や JavaEE に携わる．Oracle による Sun の買収後，InfraDNA を起業．CloudBees に吸収され今に至る．kk@kohsuke.org

僕が未踏ユースに参加したのは 2005 年でした．公募に応じた動機はいろいろありました．僕は当時すでにカリフォルニアに住んでいたので，国費で交通費が支給されて日本に行ける！という下心もありました．しかし，もっと重要だったのは，同志を見つける，ということだったのではないかと思います．

シリコンバレーといえばソフトウェア技術者のメッカのようなイメージがあるかもしれませんし，実際それは間違っていないのですが，サンフランシスコやパロアルトなどのスタートアップが集まる街のほかに，Sun や Oracle，eBay や Cisco といった大企業が集まるところもあるのです．例外ももちろんありますが，大企業にはビザの関係で転職が効かない移民や，安定志向の技術者が集まりやすい傾向があります．仕事でオープンソースのプロジェクトにかかわって「外の世界」を知ってしまった僕は，そういった Sun の社内の技術者たちに物足りなさを感じていたんだと思います．もっと凄い人と知り合って刺激を受けたい，と思ったのです．

未踏ユースはそうした刺激を受けるにはうってつけの場でした．特に，僕は最年長だったので，「あの人は年長だから」という言い訳を使えなかったのも効果的でした．

脱線しますが，インターネットの時代になっても，物理的な「場」の持つ力というのは強力です．iPhone が Cupertino でしか設計できないように，またはシリコンバレーがいまだにその地位を保っているのも，場の持つ力です．東京圏には信じられないほど多くの人が集まっているので簡単に似たような場ができそうに思えますが，多分東京はあまりに多くのことの中心地になりすぎているのでしょう．その濃度が邪魔をしてソフトウェア技術者たちの場を作る妨げになっているのではないかと思います．また，一度クリティカルマスができ上がってしまえば，場は自分自身を保存する力があります．僕は，こうした自己保存可能な場を作る試みこそが未踏プロジェクトであると思っています．

図 -1

話を戻します．未踏ユースでテーマにした call/cc を Java に持ち込んでワークフローエンジンを作る，というプロジェクトそのものはそれほど大きな反響を生むことはありませんでしたが，その後 Jenkins（http://jenkins-ci.org/（**図 -1**））という別なプロジェクトが大きくヒットし，今では世界中に数百人のコミッタを擁し，何十万人という開発者に使われるツールに成長しました．この分野では世界一のツールですし，狭いながらこのツールのおかげでそこそこ有名にもなりました．2010 年には Oracle を辞めてこのプロジェクトで小さな会社を作り，その後 CloudBees という別なスタートアップに買収されて，今はこの Jenkins を飯の種にしている人が何人もいます．未踏で得た場の力に関する経験や，未踏で出会った若者たちにはまだ負けられんという気持ちが役に立ったことは疑い得ません．また，スタートアップというシリコンバレーの別な層に移って，こうした場の力を実感する毎日です．

最後に，未踏プロジェクトについて一言，僕は未踏とオープンソースはもっと強く結びついてもよいと思っています．1 つは，オープンソースには他人を巻き込む高い乗数効果が期待できるという点と，もう 1 つは場を作るという機能により優れているからです．国のお金を使った結果を国民に還元するという点でも理解が得られやすいでしょう．

僕は依然としてカリフォルニアに住んでいるため，未踏で知り合った人たちと会う機会は限られており，未踏によって作られた場を保存するのに貢献できないでいるのが心残りです．本稿がその一助になればと祈っています．

（2011 年 9 月 19 日受付）